

シーズのテーマ: 災害時拠点施設の防災対策と地域へ還元できる「減災」のプロセス

【研究者】

氏名: 池内 淳子(いけうち じゅんこ)
 学部: 理工学部
 学科: 建築学科
 職階: 教授
 連絡先: <http://www.setsunan.ac.jp/~ikeuchi/lab/>



【研究の概要】

(テーマ1) 病院防災(災害医療)

阪神・淡路大震災では、地域の基幹病院が壊滅的な被害を受けました。また、東日本大震災では、沿岸部の病院が津波被害にあいました。病院を含め災害拠点となる施設の災害耐抗性は喫緊の課題です。そこで、以下のような研究を行っています。

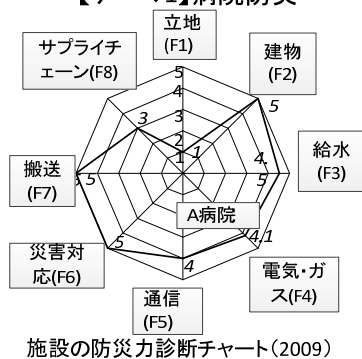
(テーマ2) 竜巻等突風災害の被害軽減(耐風工学)

昨今、国内では大規模な被害が生じる竜巻が発生しています。一方で、竜巻災害の被害の実態は不明な点が多く、他の自然災害に比べ対策は遅れています。そこで、被害実態の調査を中心に、以下のような研究をしています。

(テーマ3) 地域に提供できる防災教育プログラムの開発(建築防災工学)

日本は地震の活動期に入ったと言われています。また、台風・水害などの災害も多発しています。そこで地域で取り組める実践的な防災教育プログラムを開発し、提供しています。

【テーマ1】病院防災

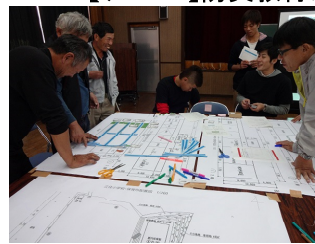


【テーマ2】竜巻の被害軽減



竜巻被災地の調査(2012)

【テーマ3】防災教育プログラムの開発・実施



避難所運営図上訓練(2013)



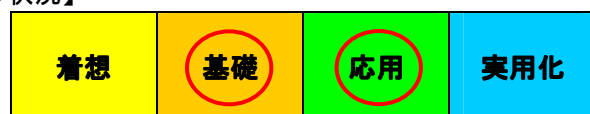
防災運動会(2013)

【研究の特長・従来技術との比較】

従来の災害研究では、研究者が専門とする災害種別(地震・台風など)に応じた研究成果が発表されていました。

当建築防災研究室の得意分野は、「災害医療」・「耐風工学」ですが、あくまでも「人」を中心とし、実際の被害事例を詳細に分析する事、また、それらの結果を踏まえて、地域コミュニティや組織で役立つ実践的な成果を積み上げる事、を基本姿勢としています。そのためには、社会の皆様のご協力が不可欠で、地域共生型・組織連携型で活動していることが特徴です。

【研究の状況】



※基礎部分と応用部分の両方を行っています。

【課題、今後の方向性】

関西では南海トラフ地震が懸念されていますが、台風・竜巻の発生報告例も多数あります。これらの実災害時に少しでも役立ち、地域の「減災」に役立てることが重要です。

そのためには、「調べる」⇒「組み立てる(開発する)」⇒「実践する」を積み重ね、地域コミュニティ、組織の皆様とも試行を繰り返すことが重要です。

【用途・効果】

- ・社会的に重要である災害時拠点施設の防災対策の向上
- ・開発した防災教育プログラムへの実践を通じて、地域コミュニティや組織の災害時対策が進む(「災害への備え」の向上)
- ・開発した防災教育プログラムへの実践を通じて、地域コミュニティや組織の日常の連携が進む(「まちづくり・組織づくり」への寄与)
- ・防災への新しい考え方を持った若い世代を増やすことで、10年後の対策を推進する

【関連資料・特許・文献・参考事項】

1. 大規模地震災害時における病院間の傷病者搬送に関する考察、池内淳子、その他3名、地域安全学会論文集、No.19、pp.73-81、2013
2. 災害医療情報 GIS システム WEB 版の構築と検証、池内淳子、その他3名、地域安全学会論文集、No.15、pp.209-217、2011
3. 災害拠点病院を対象とした病院情報管理手法の構築、池内淳子、その他3名、地域安全学会論文集、No.11、pp.393-402、2009
4. 2005年JR福知山線列車脱線事故における医療活動に関する時刻歴解析、池内淳子、日本救急医学会雑誌、Vol.20、No.4、pp.201-211、2009
5. 災害拠点病院が保有すべき防災力に関する研究、池内淳子、その他2名、地域安全学会論文集、No.10、pp.495-502、2008
6. 竜巻等突風災害に対する行政の災害対応能力向上に関する研究、池内淳子、その他7名、第20回風工学シンポジウム論文集、pp.241-246、2008